



月報

7

缶詰問屋協会

(48. 7. 10 No.79 VOL 7)

☆目次☆

和気会長御挨拶	1	
◇6月の行事一覧表	3	
◇果実部会	4	
◇パイナップル部会	9	
◇(第2回)東京10人会	14	
◇みかん缶詰PR打合せ	25	
◇(第19回)表示問題連絡協議会	29	
◇'73缶詰フェア東京結果報告会	32	
◇(第20回)表示問題連絡協議会	35	
<table border="1" data-bbox="213 997 437 1058"><tr><td>缶詰共同宣伝</td></tr></table>	缶詰共同宣伝	36
缶詰共同宣伝		
<table border="1" data-bbox="213 1074 437 1134"><tr><td>関係団体報知</td></tr></table>	関係団体報知	36
関係団体報知		
<table border="1" data-bbox="213 1150 437 1211"><tr><td>会員消息</td></tr></table>	会員消息	37
会員消息		

全国缶詰問屋協会

Japan Canned Food Wholesalers Association

〒103 東京都中央区日本橋室町2丁目6番地
江戸ビル 2階

電話 東京03(241) 6568・6569番



〔御挨拶〕

此の度の浅井前会長の逝去に伴い、5月16日の理事会に於て皆様から私がおの後任者として会長職に就くようにとの御奨めを受けましたが、業界の先輩として中山副会長も居られることでもあり、又私自身そのような大任をお引受けする柄でもないので御辞退申し上げたのですが、強つてとのことで御引受けさせて戴いた次第です。

何分至らぬ私で御座いますが、副会長・理監事の皆様や会員各位の格別の御援助御指導と御鞭撻の下に無事に任務を遂行させて頂き度く御願ひ申し上げます。

前会長が昭和41年11月に業界の皆様と共に本協会を結成以来、本年5月迄約7年間会長としての御役を御引受け致し、其の間何かと本会の役員・会員の皆様から御援助を賜りましたことを厚く御礼申し上げますと共に、又5月22日、23日の両日行われた通夜・葬儀・告別式に当っては協会から何かと特別の御配慮に預りましたのみならず、本協会の御推薦に依り正六位勲五等雙光旭日章を国から拝受出来ましたことは同じ北洋商事に籍を置く私として深く感謝致して居ります。

缶詰(含壘詰)は皆様御承知の通り特殊な品種を除けば其の大部分は生産面において所謂シーズンパックが行われ、一年間の需要量の製造が短期間に行われて居りますので、需給関係と生産コストの見透しが妥当を欠くと、其の年の生産量を生販両者が適正マージンを確保して、然も翌年ニューパック製品が市場に出廻る迄の間に完全に消化されるということの実現が非常に難かしい商品

であります。近年における商品の国際化は日本市場に対する輸入品の大量流入という現象が現れ、需給や価格の適合が益々難かしくなって参って居りますのみならず、最近に於ける為替相場の変動制の下に於ては従来輸出向に製造せられて居った製品が国内向に廻される量の増加も著しくなることが予見せられて居ります。

更に一方消費面に於ては、所謂コンシューマリズムの高まりと消費者保護行政の強化は国家に依る各種法律の強化を招来し、「消費者保護基本法」「農林物資の規格化及び品質の適正化に関する法律」「不当景品類及び不当表示防止法」「食品衛生法」等々の一連の法律の公布並びに之等の法律に基く多数の施行規則の制定等に依り、単に造って売れば良いといった時代は既に過去のものとなり、販売業者は各種卸詰メーカーの組合や行政官庁と緊密な協議連絡の下に販売面の実情を織り込んで貰いながらスムーズに営業を進めて行かねばならない時代に這入って居ります。

従って販売業者は之等生産者・行政官庁等の関連部門とのコミュニケーションを強化し、コンシューマリズムの昂揚に順応すると共に生産者販売業者間、又販売業者同志間の情報交換を密にして之を生産・市場対策の双方に反映させ、以って各自の企業の適正運営を実現せねばならないと考え居りますが、此の傾向は今後共益々強化されるとも緩和されるとは考えられません。

以上の趨勢は本協会の活動の強化、殊に夫々の分野を担当する部会活動の強化を益々必要と致すこととなる次第であります。

斯る見地から私自身も及ばずながら時代の流れに副った線で本協会の運営強化を計り、以って流通業者の適正な利益の確保の実現を計ると共に引ては業界として国民福祉の向上にも御役に立ち度いと考え居りますので何卒よろしく御援助を御願い申し上げます。

会長 和 氣 正 夫

6 月 の 行 事 一 覧 表

行 事	月 日	時 間	場 所	出 席
果 実 部 会	6月 6日	13.30～15.00時	松下鈴木 [㈱] 東京支社	16名
パインアップル部会	6月 6日	15.00～16.30時	"	19名
'73 缶詰フェア 東京結果報告会	6月11日	16.00～17.30時	日本橋花屋	36名
(第19回) 表示問題連絡協議会	6月12日	13.40～16.00時	国際 観光会館	全缶協3名
みかん宣伝打合せ	6月13日	12.00～14.00時	八重洲 竜名館	中山副会長他
第9回全国缶詰大会 実行委員会	6月13日	14.00～16.00時	日 缶 協	北田専務理事
アスパラ開缶研究会	6月14日	14.00～16.00時	北海製缶	全缶協側5名
東京10人会	6月19日	11.40～13.30時	北洋商事 [㈱]	和気会長他 10名
「世界パインまつり」	6月22日	～27日(6日間)	西武百貨店 静岡店	北田専務理事
"	6月22日	～28日(7日間)	天満屋 岡山店	
みかん缶詰PR打合せ	6月25日	13.30～15.00時	蜜柑缶工組	全缶協側4名
全国缶詰大会 実行委員会	6月28日	10.00～13.00時	ホテル パシフィック	北田専務理事
故浅井二郎前会長 四九日忌	6月28日	15.30～	パレスホテル ローズルーム	約300名
(第20回) 表示問題連絡協議会	6月29日	13.30～	日 缶 協	

7 月 の 行 事 予 定

アスパラ開缶研究会	7月 3日	14.00～	北海製缶	
JAS もも缶詰展示説明会	7月10日	12.30～	オリンピック記念少年 総合センター研修館	
普及宣伝、果実規格	7月11日	10.30～	松下鈴木 [㈱] 東京支社	

果 実 部 会

- 日 時 昭和48年6月6日 13.30～15.00時
- 場 所 松下鈴木㈱東京支社 5階会議室
中央区日本橋室町3-2
- 議 題 ① 新物チェリー缶詰に関する件
② みかん、もも缶詰等の情報交換に関する件
③ その他

※ 部 会 討 議 の 概 要

本部会はチェリー缶詰の生産期を迎えるに当ってその情報交換を中心議題に開催されたものである。

1 チェリー缶詰について

まず野田部会長から次のような見解が述べられた。

「いよいよチェリーのシーズンに入った。昨年は灰星病で大減産になるであろうといわれたが、予想外に製造され、95万函近いものが生産されたと見られている。原料価格は市場枯れ、病害などにより過熱しキロ430～440円を唱え、パッカー仕切価格も210円前後の高値で終わった。その他に輸入ものが12～13万函入荷しており、供給量は107～108万函と非常に多い数量になった。キャリオーパーについては私は20万%は残っていると思う。本年の作況はまずは平年作であろうと見られる。早ばつの影響で玉伸びが悪いが1万3千トン程度が見込まれる。早生の佐藤綿が非常によくナポレオンは平年作、収穫時期は3日間位遅れ今後の降雨次第では実割れ

が心配されている。生果には最高3,000トンが回されるので仮に13,000トン収穫されれば約1万トンが加工用となる。これに2次加工用の1,000トンを差引くと9,000トンとなり4/2換算で100万%生産される。昨年あの高値でそこそこに消化したものの、ことしは供給量が大中に上回り輸入も増加しよう。そこでパッカーとしても原料価格を極力おさえないということを知っている。」

このあと各氏より次のような意見が出された。

- 昨年は高値にかかわらず比較的順調に推移したが、売り先きの調整をしたところ思わぬところに残っている。特に西が予想外に残っており繰越しは20万%程度あるという感覚を持っている。作柄については山形県で国道筋は実の付きはよく、いまのところ45年なみと予想される。45年の山形県内生産量は10,500トン、このうち青果へ2,300トン、缶詰に7,700トン、その他となっており、価格は平均200円(山形)。チェリー缶詰の東北6県の生産数量は96万函、外に5G缶がある。ことしは昨年の価格より下回りパッカーは冷静にしているが生産期に入れば判らない。
- 製缶筋のブランドオーナー発注状況を集計するとかなり大きな数字となる。作柄について山形県内の収穫予想は県庁では10,500トン、山形缶協は11,000トンの作況調査報告であり、場合によっては13,000トンが予想される状況で生産者が強気であると終盤だれる危険性がある。おそらくことしのチェリーは本命のナポレオンがだれるのではないか。ここでパッカーとの打合せを慎重にやっておかないと危険である。
- 山形県以外に3,500トン位収穫があるので加工用は十分にあるということを知っていなければならない。従って原料価格は低目にかかれば危険である。ことしの生れ値はいくらになるのか判らないが、仮に350円スタートであれば中間だれる気がする。

- 輸入は枝付の製品で35～40粒位、そのなかに枝付でないものが1割位混入している。実割れ、腐れは3%見る必要がある。昨年当初110円台で入荷したが、最終的には160円位に値上げしている。抱き合せ輸入で各社まだ手持ちしている。枝付そのものは日本の製法に近いが120円で40粒位であり1粒に換算すると日本と余り変わらない。一応150円前後でオツプアされているが、数量的には少くことしは輸入品の影響は余り考えなくてもよからう。
- 昨年は灰星病で当初50万函程度ということであった。実際には90万函、リパックを含め100万函生産されたが価格形成の面から大分助けられた。一方、ことしは130万函との声も聞かれ、このまま推移すれば大変なことになり少くとも高値増産されないよう慎重に対処すべきである。
- 実需は70万～75万函であり、これを越せば需給関係に相当影響を受けることは必至である。まだ業務用はみかん缶詰No.10との関連で影響を受ける。

☆

☆

☆

以上のように各氏から意見が出され結論として野田果実部会長名で農産缶工組チェリー部会部会長今野善之殿宛に需給関係を訴え、原料買付けと生産には慎重に対処するよう要望書を提出することになった。

2 みかん缶詰のPRについて

この件に関して蜜柑缶工組村上専務理事、読売広告社から申入れがあり急拠本部会で説明を聞くことになったが、その前に中山副会長から内部的に次の報告を行なった。

「3月29日蜜柑缶工組は東京ステーションホテルで理事会、内販対策委

員会を開き、みかん缶詰が大増産され、その消化を図るためPRに格段の努力をしていくことになったが、5月に約束のPRについて全缶協のお知恵を借りたいということから会合を持った。始めは普及宣伝部会が受持つという考えで進めたが話の途中から普及宣伝部会が引受けるほどのスケールでもなさそうであり、蜜柑缶工組を全缶協がお手伝いするというかたちになった。」との説明があり、オープンクイズキャンペーンの案につき、その進行状況など経過報告した。

新物チェリー缶詰に関する要望

6月6日の果実部会において日本農産缶詰工業組合に、新物チェリー缶詰に関する要望を行なうことになり、6月8日付で次の内容の要望書を提出した。

部 発 第 3 0 6 号

昭和48年6月8日

日本農産缶詰工業組合

チェリー部会長

今 野 善 之 殿

全 国 缶 詰 問 屋 協 会

果実部会長 野 田 喜三郎

新物チェリー缶詰に関する件

拝啓 初夏の候ますますご隆昌にて大慶に存じます。

さて、いよいよ新物チェリー缶詰の生産期も目睫の間に迫りましたが、弊協会では6月6日果実部会を開催し、首題の件に関し協議致しましたところ、本年度は特に原料買付けと製造計画には慎重を要する年であるとの結論に達しました。

つきましては下記の如く卒直なるご要望を申しあげチェリー缶詰がよき年度としてスタート致しますようご協力の程お願い申し上げます。

敬 具

記

1. チェリー缶詰の実需能力は年間70万函から75万函といわれている。しかし昨年度は灰星病発生により50万函程度の減産と当初伝えられながらも最終的にはリパックものを含め100万函前後の生産が見られた。しかも市場在庫皆無で新物生産期を迎えた昨年度とは本年は環境を異にしており、すでに生産期入りを迎えた現在市場にいまお20万函以上の繰越しものが在庫されている状況である。
2. 本年の新物生産は伝えられるそのままが遂行されれば130万函を超えるのではないかとの見方も一部にあり、現在のキャリオーパーの実情から考えても非常に危険性をはらんだチェリー缶詰と言える。
3. 特に原料購入については慎重であるべきで、高値原料でスタートするようなことでもないと本年は生販両者とも大きな負担を招くものになることは火を見るよりも明らかである。
4. いずれにしても高値増産は絶対に避けなければならない。
5. 最近輸入ものの引き合いも活発であり量的にもまた価格的にもその動向を無視することは出来なくなった実情にある。国内生産において今年は申すまでもなく、今後も計画性を具えたものでないとチェリー缶詰はその将来性まで危ぶまれることに相成る。
6. 重要段階におかれているチェリー缶詰に関し今後とも生販連絡を密に

し対処して参りたいと存じますのでよろしくご協力のほどお願い申し上げます。

以 上

パインアップル部会

- 日 時 昭和48年6月6日 15.00～16.30時
- 場 所 松下鈴木㈱東京支社 5階会議室
- 議 題 ① 部会長の異動に関する件
② パインアップル缶詰に関する情報交換の件
③ その他

※ 部会討議の概要

本部会は5月16日の理事会で和氣正夫氏が会長に選任されたことにより、後任のパインアップル部会長の選出の件とパインアップル缶詰の生産状況・市況等について情報交換を行なった。

1 部会長を選出

野田、中山両副会長より部会長会社である北洋商事㈱から適任者をご指名願ってはどうかとの提案があり、全員異議なくこれを諒承。新部会長に北洋商事㈱営業本部副本部長依田寿夫氏を選任し、次のように新部会長から挨拶

があった。

「部会長を私にとの指名を受けた。私は名古屋に長くおりかつ地方にいてみなさんとは顔なじみでないが、これからは皆さんのご協力、ご指導を受けてやって参りたいのでよろしくお願ひしたい。」

2 パインアップル缶詰の情報交換

まず、和気会長から次のような状況説明があった。

「ここにきてパイン缶の価格が上ってきている。グローバル輸出国はTPCの例をとっても昭和33年から昨年まで価格が据置かれたが、本年2月に3/3スライス約5%アップしFOB4\$42となった。さらに3月に20%強のアップで5\$35になった。これは円のプロートによってこうなったが、これに55%の輸入関税が加わるとかなり高くなる。TPCの陽氏が日本パインアップル輸入協会で説明したが、生パインが40%アップ、ブリキ20%アップ、砂糖60%アップ、工賃100%強アップ、以上を除くその他20%アップしている状況であるとの説明であったと聞いている。東南アジアのパイン缶詰生産国が一種の親睦会をつくり建値の共同歩調を取っているようで再値上げがあるかもしれないという空気である。問題は国内に流通するパイン缶は沖縄で生産する以外は配給制度であり、グローバルパイン缶の本年度の供給は130万函が見込まれる。このうち上期は105万函発券された。従って前年に比べ10万函増である。それに沖縄の生産品、国内で冷凍原料により製造されたもの、この合計が本年度パイン缶詰の供給数量となる。沖縄を除いてパイン缶は世界的に減少傾向で台湾の全生産量は400万函あるがことしは20%位減産。フィリピンも20%減産し、その他マレーシア30%、タイもある程度の減産と伝えられており、このように東南アジアは全般に減産ということであるが日本への供給量には関係はない。一方沖縄は47年度(4~3月)160万函の計画であったが実績は153万函と聞い

ている。本年度はどうかというと130万函乃至140万函であるが、この不足分を台湾から原料を輸入するということであり、この原料が沖縄に順調に輸入されたと仮定すると、ほぼ前年並みの150～160万函は生産できるという情報である。また国内の冷凍パインによる生産は採算的には悪くなっているが、工場を稼働させるという意味から製造を行ない、前年50万函に対して本年は100万函できるであろうと観測されている。従って本年の供給量はグローバルの10万函、冷凍原料により最も多い場合50万函増の合計60万函が増えるであろうという状況である。」

冷凍の100万函は原料的にいって無理ではないかとの意見があり、次いで角谷氏から次のような状況報告があった。

「沖縄は前年74,300トンでピーセス以上153万函という実績である。ことしはどうかという例により沖縄現地の情報が混沌としている。始め8万トンと聞いていたが、こちらに来た尚理事長の話では県庁の見込は7万3千トン(本島4万3千トン、八重山3万トン)で八重山の数字は台湾からの原料を含めない地元のみで数量という話であった。しかし私はこれは多過ぎるとみている。一方組合調査では6万1千トン(本島3万5千、八重山2万6千)であり、この数字の喰い違いは台湾を見込み、一方はそれを含まないところにあるが、まずこの確かな数量をつかむことが先決である。原料価格を大分上げなくてはならないが、来週パイン協会市場対策委員会メンバーが沖縄現地に行き、農民・パッカー・県とパイン価格の調整をする。こちらとしては是非マーケットを考慮に入れるよう申し込みたい。昨年74,300トン、本年は県庁調べで73,000トンと減少しているが、昨年並みの生産を維持すると見て間違いはないと思う。台湾からのパインフレッシュの輸入は台繩パッカーからクレームが出て先月10日クラウンをつけたものでないと輸出してはならないと指令を出している。これが実行されれば歩留りが落ち、パッカーによっては製造を取り止めるところも出よう。そうなると沖縄の生

産が減るということもあり得る。グローバル関係でごく最近聞いたところで台湾が400万函予定に対して約3割近い減産で300万函を少し割るということである。

天候が世界的に不順で、台湾・フィリピン・マレーシア・タイ等すべてこの影響を受けている。マレーシアは30%減ということであったが、最近では40%減ともいわれている。またタイも40%減産ということであったがこれは5月中天候がやや順調となりいくらか回復している。価格の件は6月26日また4地区のパッカーが香港に集まり会合を開く。再度日本向け価格の上げかとの噂も聞くが、今回はその積りはなく単なる情報交換ということのようであり香港会談での再値上げは私はないものと見ている。台湾のストックが底をついており若干品薄気味となっているが、幸か不幸か昨年度の本土在庫が20万函ありこれで賄っていく。台湾からも積んでおりそう極端な品薄にはならないと思う。価格は需給関係から生れてくるが経済企画庁で輸入品に対し特にパイン缶詰、ジャムの値上げの動向には注目しており、輸入もののチェックをするということである。グローバルメンバーとしては国内の需要期に向って出来るだけ早く積ませることをこちらの義務としてやらなくてはならない。」

☆

☆

☆

沖縄パイン産業の状況について次のような説明があった。

「本島も八重山のように台湾から原料を引いて生産したい意向がある。八重山の場合は台風と早ばつで企業としてなりたはず、やむを得ず引いているが本島の場合はそれ程減産ではない。パイン協会としては沖縄パイン産業を伸ばしたいという立場にあり、よそから原料を購入し詰めるということはその主旨から大分ズレてしまう。やはり缶詰はその周辺の原料を詰めることに

メリットがある。沖縄は2～3年前に170万%に満たないときはその差額を原料輸入してもよいという話し合いが出来たようだ。

沖縄パインは政府の育成品目に取りあげられ品種の改良を行ない、昭和56年の最終年度には12万5千トン、250万函になるまで保護していこうということになっている。パイン協会としては勿論、沖縄パイン産業に協力するという姿勢である。」

このあと価格問題を中心に各氏から見解が述べられ、次のような結論となった。

☆ ☆ ☆

玉がいつどの位入荷してくるか判らない状態で、8月以降マーケットはかなり乱れよう、混沌としており、秋以降かなり荷もたれし値がとれなくなる。沖縄との折衝にあたり秋以降のマーケットをおり込んで折衝されるようインポーターに願う。

3 沖縄パイン缶詰の表示について

沖縄パイン缶詰の一括表示内社名の活字の大きさについて、現地側はJAS規格通り解釈し、他の表示と全く同じ大きさの活字で表示することを決定した旨を北田専務理事から報告した。これは3月8日、4月9日付文書により各部会員に連絡したが、正式に部会の諒承を得る意味から本部会で説明を行なった。

4 冷凍パイン缶詰の表示問題について

パインアップル部会として冷凍パインをこのままの状態が続けておいてよいかどうか、消費者には冷凍パインという見分けがつかないわけであり、価

格の面だけで見過しているが、将来問題になってくるのではないか。全缶協として検討をしておく必要があるとの提案があり、これに対してパイン部会として従来から品質の低下を来たさないために販売側としては十分監視するという姿勢できているが、さらに本部会で冷凍パイン缶の表示問題について日缶協とも連携しあい継続審議事項として取りあげていくことになった。

(第2回) 東京 10 人会

日 時	昭和48年6月19日(火)	11.40～13.30時
場 所	北洋商事(株)	7階会議室
内 容	1. 48年度事業計画各部会スケジュールに関する事務局 (案)の検討	
	2. JAS規格問題点について	
	3. 第9回全国缶詰大会について	
	4. みかん缶詰の宣伝について	
	5. その他	
出 席	全国缶詰問屋協会	会 長 和 気 正 夫 氏
	〃	副会長 中 山 良 助 氏
	(株) 矢口屋商会	岸 田 明 氏
	(株) 明治屋	高 崎 康 二 氏
	野崎産業(株)	上 滝 雅 三 氏
	北洋商事(株)	加 藤 稔 氏
	松下鈴木(株)	須 貝 真 吾 氏
	住商フーズ(株)	金 沢 芳 雄 氏

キ ュ ー ピ ー 俵	島 田 長 治 氏
全 国 缶 詰 問 屋 協 会 専 務 理 事	北 田 久 雄 氏
”	中 沢 和 雄
欠 席 俵 サ ン ヨ ー 堂	多 田 義 朗 氏
国 分 俵	塩 月 隆 義 氏

* * * * *

談事に入る前に和気会長から次のような挨拶があった。

「先般の理事会で私に会長をやれという話があり、私としては中山副会長という大先輩もおられるし、ご辞退したが理事各位がどうしてもと申され、私自身そのような人柄でもないがお引受けした以上全力を尽してやる覚悟である。どうかみなさんのご指導をお願いしたい。

本日は在京理事会社第一線の10人メンバーによる懇談会で協会そのものは案件によって、理事会・総会・部会という場でそれぞれ決定していくが、実際には在京理事第一線メンバーの方で検討願わなければ具体的案が建て難く、今後も必要に応じてこの懇談会を開催して参りたいのでよろしく願いたい。

本日は議題が多く時間内に検討いただけるかどうか心配だが、早速談事に入りたい。」

1 48年度事業計画各部会スケジュールに関する事務局(案)の検討

まず北田専務理事から各部会開催スケジュールの事務局(案)について説明を行ない、このあと各氏から意見が出された。その主な意見として、①部会開催はその製造シーズンの出来るだけ早めがよく、生産直前では各社計画もまとまっており計画を変更することはなかなか難しい面がある。②部会の結果によりわれわれも動くといった方がやりやすい。③ミックスフルーツの表示問題が出てくると思われるので果実部会で取りあげてもらいたい。④

なめこがオガ、天然といったことで市況の検討が必要であるなどの意見があり、検討の結果一応のスケジュールがまとめられたがそれも時に応じて変更もあり、固定したものでないとの考え方、その辺のところをメドに運営していこうということになった。

48年度全缶協活動スケジュール

〔49年度総会〕

昭和49年5月中旬(役員改選)

〔理事 会〕

昭和48年8月上旬(缶詰大会等)、49年1月中旬(会員、会費等)、
49年4月上旬(総会前)、49年5月中旬(総会時)。

〔普及 宣 伝〕

48年7月上旬(共同宣伝)、12月上旬(共同宣伝、企画)。

〔果 実 部 会〕

48年6月上旬(チェリー)、7月上旬(もも)、7月下旬(みかん、
ミックスフルーツの表示)、11月上旬(みかん)、12月中旬(み
かん)。

49年1月下旬(みかん)、3月下旬(みかん)、4月下旬(チェリ
ー)。

〔蔬 菜 部 会〕

48年7月下旬(スイートコーン)、8月下旬(マッシュルーム、な
めこ)。

49年1月下旬(たけのこ)、4月上旬(アスパラ)。

〔水 産 部 会〕

48年9月下旬(さんま等)、12月中旬(情報交換)。

〔食肉部会〕

48年11月上旬(情報交換)

〔パイナップル部会〕

48年6月上旬(情報交換)、7月下旬(市況等)、8月下旬(新物)、
11月上旬(開缶)。49年1月下旬(情報交換)。

〔規格部会〕

48年7月上旬(表示等)、9月下旬(表示等)、12月中旬(JAS等)。
49年2月下旬(JAS等)。

〔東部政策調査部会〕

48年7月下旬(活動)、12月上旬(調査)。
49年2月上旬(新年度)。

〔中部政策調査部会〕

48年7月下旬(活動)、12月上旬(調査)。
49年2月上旬(新年度)。

〔西部政策調査部会〕

48年7月下旬(活動)、12月上旬(調査)。
49年2月上旬(新年度)。

〔缶詰表示問題連絡協議会〕

関係団体で組織している会で日缶協、製缶協、全缶協の回り持ちで開催しているが前年の実績から毎月1回開催される予定。

〔懇談会〕

蜜柑缶工組、農産缶工組との懇談会が主となっているが、一応の予定として次のようなスケジュールを考えた。

48年8月中旬 (スイートコーン)

” 8月下旬 (みかん)

48年9月下旬 (マッシュルーム)

49年2月上旬 (たけのこ)

〃 4月上旬 (アスパラ)

〃 4月下旬 (アスパラ)

〔その他〕

その他の会合として在京10人会を次のスケジュールで開催予定である。

48年6月中旬、9月中旬、49年1月上旬、4月上旬。

2 JAS規格問題について

北田専務理事から次のような説明を行なった。

1) パイン缶詰の一括表示様式について

沖縄パイン缶様式

業界統一様式

品	名				
形	状				
原	材	料	名		
固	形	量			
内	容	総	量		
製	造	年	月	日	
使	用	上	の	注	意
原	産	国	名		
販	売	者			

製	造	年	月	日	
原	産	国	名		
販	売	者			
使	用	上	の	注	意

「使用上の注意は初め厚生省からいってきたもので、農林省は親切表示であるから一括表示の欄外でもよいとの意向であり、業界としては文言も

長いので欄内の一番下を書くことに統一したわけであるが、パイン缶詰の JAS では 7 番目に書くような順番になっているため、沖縄県の検査機関はその通りに表示して欲しいという申入れをしてきている。これから新しく品目別に JAS の一括表示様式がつくられる方向にあり、なしくずしにパイン方式に切替えられることも懸念される。」

以上検討の結果次の結論となった。

日缶協をはじめとするメーカー団体は業界統一様式でよしとしており、パイン缶詰以外の一括表示様式は全缶協も関係団体と同調し、業界同一歩調でいくとの方針が確認された。

2) ジャム JAS の等級表示について

北田専務理事から次のような報告を行なった。

『以前は「等級の表示は省略すること」となっていたが、ジャムの新 JAS 規格では「省略することができる」と変わった。これにより農林省は JAS マークの下に「標準」と表示するように指導しているということである。

現在等級のある JAS はもも、洋なし、たけのこ、ジャムの 4 品種であるが、これが発展し等級のないみかんなどにも「標準」と表示せよということになりかねない。特に「標準」と表示することは販売者にとって大きな抵抗がある。日缶協は「標準」と書けといわれていることに対し、それを断る理由づけがないという見解であるが、全缶協は内部検討をしたいということにして持ち帰ってきたので一応保留のかたちで全缶協の返事待ちとなっており、ここでご検討いただきたい。」

以上検討の結果、全缶協としては反対の姿勢を取るようになった。

3) 果実缶詰の一括表示基準について

北田専務理事から次のような説明を行なった。

「缶詰表示問題連絡協議会で検討を重ね、ようやく果実缶詰の一括表示

基準をまとめた。これは一般原則といったものでこの原則は変更しないようにするとの考えから業界間で煮詰め、これが最終的（案）となっている。日缶協、製缶協、蜜柑缶工組等関係団体はこれによしとしており、あと全缶協がOKであれば果実缶詰の一括表示基準の業界統一見解として農林省に持っていくことになっている。これについて全缶協としても特に問題点はないと思われるが、のちほど目を通していただき問題点を事務局まで電話でお知らせ願いたい。なければ部会に報告したうえで全缶協もOKすることにしたい。」

3 第9回全国缶詰大会について

北田専務理事から次のような報告を行なった。

「缶詰大会は昭和38年に第8回を実施し、ことしの缶詰大会で第9回目になる。6月13日にその実行委員会が開かれ、関係11団体の各専務理事が実行委員になるということで私も出席した。その時にお手元の第9回全国缶詰大会開催要領（案）が示されたわけであるが、このうち日時・場所を決定し、あとは5回にわたり実行委員会を開き具体的にまとめていくことになっている。

実行委員は35名で、委員長芝野清一氏、副委員長堀口晃氏である。

全缶協も協賛してほしいとの申入れがある。それにしても全缶協としてどのようなかたちで協賛していくか、協賛金をいくら出すかといった問題がある。

参加者の会費としては個々に5,000円を徴収するが、全員に一応記念品を出すということになっている。永年勤続者表彰は第8回目の大会には問屋は日缶協内販部門として加入しており、表彰の対象になっているがこんどはどうかとの質問をしたところ次回検討課題とされた。

全缶協の25社は日缶協賛助員として加入しており、対象となることは当

然だと考えるわけである。2回目の委員会は6月28日に会場のホテルパシフィックで下見をかね、打合せをすることになっており、全缶協として要領(案)の2.決議大会決議の採決、3.表彰(3)永年勤続者(30年以上)表彰約300名、4.コンクール(1)国産缶詰コンクールについてみなさんに検討をいただき委員会の席で発言致したい。」

全缶協協賛金については、いま少し具体的に煮つまってから検討することになった。また永年勤続者については全缶協も要望し、同一基準で全缶協メンバーから何名位選ばれるか、全体的に調整を図りたいとされた。

4 みかん缶詰の宣伝について

北田専務理事から次のような説明を行なった。

「蜜柑缶工組がみかん缶詰函3円、合計2,000万円の予算でみかん缶詰のPRを行なうことになり、全缶協の協力を得たいということから宣伝方法について検討を行ない、案として大量陳列、歩行者天国、三角クジの方法がつぎつぎと出されたが、いずれも実行段階で種々問題点が多く、ただいままでの案としてはお手許にある資料のごとく実施期間を7月20日～8月20日の1カ月間とし全国を対象に実施する。宣伝方法はクイズオープンプレミアムキャンペーンでクイズ当選者のうちより150名に子供用自転車を贈呈する。

落選者には読売の(案)ではもれなく全員にアプリケを送るというものであったが、組合の意見から先着一万名とされている。アプリケは120°のアイロンでシャツ衣類などに貼りつければあとは洗濯しても取れないものである。これが3枚でワンセットとし単価は30円。告知方法は読売、朝日の朝刊に5段半のスペースでそれぞれ2回、計4回掲載、1回目の広告掲載は読売7月18日～21日のいずれかの日、朝日は7月20日～23日の予定。2回目は読売8月2日～6日、朝日は8月9日～12日のいずれかの日

ということでスペースとりの段取りを進めている。クイズの回答は官製ハガキ、クイズの問題は一つの例として品種の缶マークを数種並べ、みかん＝M O Y といったことでそのヒントは小売店にいて缶ボタンを見れば判るというものである。なお自転車プレゼントのほかにもう一つの案として缶ボタンを2枚程度封筒に入れての方法が考えられている。これは直接消費につながる有効な宣伝方法であるが、そうすると景表法で小売価格の20倍以下若しくは1万円以下のいずれか低い方ということに抵触するので当然自転車は景品に使えなくなる。いずれにしても応募締切は8月20日、抽選は9月1日～5日、9月15日迄には商品の発送をもって終了させたいとしている。実は本日10時から蜜柑缶工組で販売委員会を開き最終的検討を行なっている。新聞広告代は読売約526万円、朝日約543万円で合計約1,070万円である。

なお広告には蜜柑缶工組、全缶協の連名で出すという話になっている。」全缶協名を連名で出すことによって流通業者もみかん缶詰の販売に協力しているということが示され、全缶協地方会員もこの広告を見て、意を強くする面もあるとの見解から全缶協名が掲載されることは歓迎された。また和気会長から贈呈する自転車に何かみかん缶詰のPRになるようマークをつけるなり、宣伝文句を書くとか、あとあともPRになるようにするよう申入れてもらいたいとの発言があった。

5 その他

1) 製造工場缶マークについて北田専務理事から次のような報告を行なった。

「工場缶マークの進捗状況について事務局から全缶協ブランドオーナー約60社にアンケート調査をとったがまだ回答は12社である。そのなかで固有マークはダブっている面もあるが121工場である。アンケートには一連番号はいくつかの問がなかったため回答になっていないものの報告

のあったところのみを集計すると35工場ある。12社で121工場が固有マークということであり、これらの工場が一連番号に切換えれば相当戦力となってくるので、今後も継続作業として進めていきたい。」

まだ回答を寄せていないところに対して再度文書を出し督促することになり、今後の作業について中山副会長の指示を事務局が受けて進めることになった。

2) 冷凍パイン缶について

「過日のパインアップル部会で冷凍パイン缶詰の問題については継続審議することになっているが、このことに関し缶詰表示問題連絡協議会で発言したところ、市販品を集めて実態をつかんだうえで検討していくことになった。その製品は都市部にはあまり出回っておらないので、製缶会社の出張所等にも協力を得て現物を集めることとなった。やはり表示の問題は一番重要で十分に検討しようということであった。」

以上、北田専務理事から報告した。

3) アスパラの内面塗装缶について

北田専務理事から次のような報告を行なった。

「アスパラの内面塗装缶の問題について6月14日北海製缶で開研研究会を開いた。全面塗装缶、サイドシーム部分のPTF、HTF缶、それに白缶の3種類のを比較検討した。この日はメーカー、全缶協のブランドオーナーなど30名が出席したが、殆んどの意見は塗装缶はどうしても味、香味が落ちるという発言であった。しかし三井物産能沢課長の発言にもあったが、とにかく食品は安全性が大切で扱う方も安全なものを取扱うという方向にある。この辺で業界自体も安全というけじめをはっきりとつけるべきである。若しスズの問題が消費者、マスコミに取りあげられるようなことになると業界は大混乱となる。味は若干落ちるがこれは技術的に解決できることであり、早く業界は塗装缶に踏み切るべきではないかとの

発言を行ない、全缶協の2～3の代表もその意見に賛成のようであった。しかしメーカー側は塗装缶に切り換えることに抵抗があり、なお検討したいという意向であった。

今回の開缶研究会は製造2週間位のものであったが、このあと温検6カ月もので一通り開缶するとのことであった。」

塗装缶に切替える時期を来年の生産から踏み切るかどうか今後の課題として全缶協の姿勢について規格部会、蔬菜部会で検討することになった。

4) 全缶協賛助会員加入について

これに関連して和気会長から次のような意向が述べられた。

「全缶協は設立以来、活発な活動を展開して来たが、以前の卸売業界の動きはいわゆる懇親会程度のもので具体的な仕事はしていなかった。今後はますます同業者間のコミュニケーションが活発化すると同時にメーカー団体との密接な連絡が必要となっている。採算的には収益と経費のアンバランスが生じている。これは完全雇傭の実現により中小企業、大企業の賃金格差が従来100対40位であったものが、最近は大企業に近づいており中小企業にとって経営の苦しい時代に入ってきた。この解決は同業者が連絡を密にして適正マージンの確保のため生産面におけるコミュニケーション、マーケットの解明を必要としている。その意味からも流通業界の母体である全缶協の活動をさらに強力に推進していかなければならない。以前は製造したものを売ればよかったが、いまはそれでは済まなくなった。品質のよいものを消費者に提供することは勿論であるが、表示の面、JAS、食品衛生法等いわゆる法律的知識を必要とし、大いに団結してやっていかなければいけないことである。」

引続いて来年度の賛助会員加入について次のような見解が述べられた。

「本年度の全缶協予算は逼迫しており、来年度はなんとか増収を考えなくてはならない。一般会費は値上げすることは即、会員減に繋るので特別

会員の加入を考えたい。蜜柑缶工組、農産缶工組といった関係団体ならびに山形缶協、静岡缶協といった地区別団体、さらにパッカー個々に呼びかけたい。中央団体と地区別団体をどのように割り振るかといった難かしい面があるが、8月上旬予定の全国缶詰大会等を諮る理事会で賛助会員加入の件を審議願いたいと思う。あらかじめ理事会社に検討いただくべく、その資料として月報発送先リストをお届けしたい。全缶協月報は会員外にも発送しており、関係団体、パッカー等に約100部を創立以来無料で送ってきており、この発送先リストをもとに検討願いたいと思う。」

以上、理事会社には後日全缶協月報の会員外発送先リストをお送りし、あらかじめ検討願うことになった。

みかん缶詰PR打合せ

日 時 昭和48年6月25日 13.30～15.00時
場 所 蜜柑缶工組 応接室
内 容 みかん缶詰宣伝、プレミアムキャンペーン実施(案)についての検討
出 席 〔蜜柑缶工組側〕
村上専務、花島氏、伊原氏
〔全缶協側〕
高崎氏、井原氏、柳沢氏、中沢
〔読 広〕
2 氏

※ 打合せの概要

蜜柑缶工組では函3円2,000万円の予算でみかん缶詰のPRを実施することになり、この宣伝方法について全缶協の意見を聞きたいということから工組側と検討を重ね大量陳列、歩行者天国、三角クジ、さらにクイズオープンプレミアムキャンペーンとして自転車を提供するなどつぎつぎと起案されたが、最終的に煮詰められた(案)として、みかん缶詰の缶蓋を送ってもらうという方法がより効果的であるとの意見に落ち着いた。この方法をとると景表法で小売価格の20倍以下若しくは1万円以下のいずれか低い方という規定に従うことになり、仮にみかん缶詰の缶蓋1枚を送ってこれに景品を出すとすれば2,000円程度が限度である。そこで本打合会で具体的実施内容について検討を行った結果、次の方法により進めることに決定した。

なお、新聞広告原稿は来週早々読売から原案を提示されるが、それを見ただえであらためて検討することになった。

プレミアムキャンペーン実施要領

本キャンペーンは期間7月17日から開始し8月11日終了、都合4週間とする。

1. 告知方法

- ① 朝日、読売の2紙に広告掲載する。

広告スペースはいずれも5段、全国版朝刊

1回目 7月17日(火)または18日(水)朝日、読売

2回目 7月23日(月)または24日(火)読売

7月30日(月)または31日(火)朝日

3回目 8月6日(月)または7日(火)読売

以上の掲載日を目安として新聞社と折衝する。

通算、読売3回、朝日2回の5回広告掲載を行なう。

広告料は	朝 日(2回分)	5,433,750円
	読 売(3回分)	6,875,250円
	合 計	12,309,000円

- ② 団地新聞ザ・キーに広告掲載。団地新聞はザ・キー、ザ・ファミリー、リビングの3紙があるが、一番歴史が古いのはザ・キーであり、(全国版で25万部パブロイド版、週1回日曜日発行)この1紙に絞り広告掲載することになり、掲載日はキャンペーン期間中に2回掲載し、スペースは全5段。広告料は1回27万円の規定料金であるが、これは交渉の余地があるということであった。

- 小学生新聞に広告掲載することについては子供に射倅心を起させるといように受取られてはかえってマイナスとなるので別つ機会に考えることになった。

2. 賞 品

- 1) 抽選により当選者に2,000円の旅行券(国鉄)を贈る。当選者は毎週250名×4週間、計1,000名とする。
- 2) 落選者にははずれ賞として全員にアップリケを贈る建前ではあるが、告知上では先着1,000名とすることにした(毎週2,500名×4週間)。これは一応限度を決めておいた方がよいという考え方によるものである。

アップリケは120°のアイロンでシャツ衣類などに貼りつけばあとは洗濯しても取れないというもので3枚を1組とし、みかん、犬、花の3種類。この経費は1枚11~12円、従ってその3倍×1,000名ということになるが、応募者が予定を上回った場合を考え、また余った場合に他の宣伝にも使えるということから1,600名分を用意する。このほかに封筒33~36万円宛名書きに1枚5円で5万円が加算される。

3. 抽 選 方 法

毎週土曜日（消印）に締切る。即ち7月21日、7月28日、8月4日、8月11日の計4回、それぞれ当選者（250名）、落選者全員に賞品を郵送していく。

当選者には書留で送付する。未着といったこともあるので当選者1,000名のリストをつくる考えである。封入の作業賃またキャンペーンの宛先を読広の京橋局私書函を使用するため、その管理費10万円、アルバイト36,000円等の諸経費が加算される。

4. 応 募 方 法

- 1) みかん缶詰の缶蓋1枚で1口とする。
- 2) 何口応募してもよい。
- 3) 缶蓋はみかん缶詰であれば何でもよい。

以上の方法であるが、全缶協から封筒に缶蓋を数枚入れてきた場合にそれぞれ1口と見做すのかどうか、いづれにしてもはっきりと決めておかないといけないとの意見を出し、告知に1封筒1枚のことというような注意書きを入れることになった。また刻印（缶マーク）のある方を送ってもらわないとみかん缶詰かどうか判らないのでこの辺の注意も必要である。

3紙の新聞に掲載するのでどの新聞が効果があったかを知る意味からも応募の際にそれぞれの記号を書かせた方がよいとの全缶協の意見からA＝朝日、Y＝読売、K＝ザ・キーとした。

5. 広 告 原 稿

1) キャッチフレーズ

効果的キャッチフレーズを考えるが、主旨は“夏休み家族旅行（或いは海水浴、キャンプETC）プレゼント”的なものを考えるということであるが、賞品が2,000円であり家族旅行といったことは誇大広告の感じがする。この辺も考慮に入れ読広で考えてもらうことになった。

2) 広告原稿について

広告原稿は本日協議した内容を盛り込み読者が原案をつくり、来週早々に蜜柑缶工組、全缶協がそれをみたうえで決定することになった。

3) 広告主名を掲載

広告の一番下に、日本蜜柑缶詰工業組合、全国缶詰問屋協会の団体名を掲載する。

(第19回) 表示問題連絡協議会

日 時	昭和48年6月12日(火)	13.40～16.00時
場 所	国際観光クラブ第1集会室	
出席者	日本缶詰協会	平野 孝三郎 氏
	”	渡辺 麟太郎 氏
	明治製菓株式会社	松下 利雄 氏
	日本蜜柑缶詰工業組合	阿部 四郎 氏
	日本果汁農業協同組合 連合会	川原 均 氏
	日本缶詰検査協会	大内山 静雄 氏
	全国缶詰問屋協会	北田 久雄 氏
	北洋商事株式会社	宇田川 悦哉 氏
	株式会社 国分	市川 英世 氏
	東洋製缶株式会社	岡 啓治 氏

大和製缶株式会社 佐藤 亮氏
北海製缶株式会社 稲毛 仁氏
日本製缶協会 山崎 力氏

以上6団体 13名

当番により、日本缶詰協会山崎氏が進行係となり議事に入る。

(1) 沖縄県のパイン缶詰一括表示の検査について

山崎進行係より、沖縄県のパイン缶詰一括表示の検査については、前回“輪切”“ニツ割”等について協議したが、今回また新しい問題が派生したので協議したい旨説明。

平野氏から、一括表示について農林省と話し合った時、当初農林省は使用上の注意を必要表示事項とすることに躊躇していたが、厚生省の意向も考慮して、一括表示内の必要事項とすることに踏切り、最下段に書くことで話し合いがついた。

沖縄県は、これを会社名の上に（注 JAS 告示ではそうなっている）書くようにとのことで改版するよう要請があった旨説明があった。

大内山氏から、果実飲料では使用上の注意は字数も少ないが、会社名の上にも書いているように思う旨、

佐藤氏から、果実飲料では最下段のものと、会社名の上のものとの旨発言あり、協議の結果次の平野氏の発言通り意見が一致した。

(イ) 果実缶詰一括表示基準案を農林省に提出する。

農林省がこれを受取れば、使用上の注意を最下段にすることを了承したことになるので、その後この旨を文書で沖縄県に説明し運用に弾力を持たせるよう要望する。

(ロ) この文書の写を沖縄県のパッカー団体及び製缶会社にも送る。

(2) ジャム J A S の “標準” 表示について

山崎進行係より、本日製缶会社から次の内容の話があり、他品種（もも、洋梨）に影響もあるので、ここに提案した旨説明があった。

- (イ) 得意先から、ジャム J A S 印刷缶に “標準” と書くよう注文があった。
- (ロ) ジャム組合に聞いたら、農林省が “標準” を書くように指導しているの
で、組合もその方針であるとのことであった。

大内山氏から、農林物資規格調査会で消費者代表委員から “特級” だけでなく “標準” も表示するようにとの要望があり、2ヶ月ほど前に従来標準は省略するものとする。とあるのを、標準は省略することができる。と改正告示し、ジャムについては “標準” と書くようにとの指導方針を決めた。依って、検査協会もそのように指導している旨説明があった。

こゝで出席者各位から

- (イ) “標準” と書かせるのは、J A S の内容からいっておかしい。
- (ロ) 等級のある、もも、洋梨の他、等級のないものにまで “標準” の表示がエスカレートする恐れがある。
- (ハ) 農林省は既に、みかんの標準形態のものに “ホール” と表示する考えを持っているので “標準” と書くよう指導することは十分に考えられる。標準、表示反対の論拠も弱い等々の意見が述べられたが、
- (イ) 本件は流通業者に大きな影響があるので、先ず全缶協で協議し、来る29日（金）に次回会合を開き協議する。
- (ロ) 標準、表示の印刷缶を発注したブランドオーナーに対しては
 - (a)製缶会社から、(b)ブランドオーナー所属団体（日缶協又は全缶協）から今日の内容を説明し、次回協議で結論が出るまで保留するよう説得することによって意見が一致した。

尚、このような缶詰業界全般に関連する事項を当局が業界全部に説明しないで特定組合にだけ説明、指導したことに対し不満を述べる発言もあった。

(3) 果実缶詰一括表示基準案について

本件は既に1月17日の第16回会議で一応まとまっております、全缶協の規格部会に諮った後に農林省に提出することで同意していたが、その後、全缶協では機関に諮っていないので、前記(2)項と共に規格部会に諮り、その後農林省に提出することになった。

尚、18回会議で一括表示、会社名の活字について

(イ) 社名の大きさは上限を2倍以下とし、書体は書き文字を認める。

(ロ) 白抜き表示でもいい

ことで同意しているので、この点を織り込んだものを農林省に提出することに決まる。

以上で議題は終了したが、北田氏から冷凍パインを原料とした缶詰は生産量が増え、本年は100万函に達する可能性もあるので、この対策も必要である旨提案があった。

これに対し、いくつかの意見も述べられたが、先ず現状を十分に把握した上で取り上げた方がいい、との意見で一致した(注・日缶協が市販品の開缶検査を行なう予定)。

'73缶詰フェア東京結果報告会

日 時	昭和48年6月11日	16.00～17.30時
場 所	花 屋	
内 容	各実行委員による会計、ならびに反省点などについての報告	
出 席	実行委員長 中山良助氏	

共同宣伝事務局
隅野日缶協専務
山崎製缶協専務
北田全缶協専務

〔会場係〕

(株)矢口屋商会 日魯漁業(株) 清水食品(株)
日本冷蔵(株) 岩手缶詰(株) 宝幸商事(株)

〔催事係〕

日本水産(株) 日東食品製造(株) 東洋製缶(株)
日本農産缶詰工業組合 日本蜜柑缶詰工業組合

〔動員係〕

三井物産(株) (株)極洋 東京都食品卸同業会

〔土産係〕

大洋漁業(株) 明治製菓(株) 国際食品開発(株)
北洋商事(株) 住商フーズ(株) 野崎産業(株)
全国缶詰問屋協会

〔即売係〕

(株)明治屋 はごろも缶詰(株) (株)サンヨー堂
ポッカレモン(株) 習志野缶詰(株)

〔総務〕

(株)サンヨー堂 日本缶詰協会

☆ ☆ ☆

先ず、中山実行委員長より次のような挨拶があった。

「5月25日(金)、26日(土)の両日、都立産業会館3階において'73
缶詰フェア東京を開催した。ことしのテーマは“楽しい食事に、いつも缶詰”

と題し盛会であった。これも3年間続いたチームワークのとれた実行委員各位のご尽力の賜と感謝している。」

このあと各係担当より収支決算ならびに次のような反省点の報告があった。

○ 会 場 係

1. 各コマとも試食試飲を大に行ない盛会であったが、ゴミが多く出て大型車が必要となった。
2. ゴム風船などガス入りのものが登場して好評であった。
3. 各コマともディスプレイが美しく観客の興味をひきつけた。

○ 催 事 係

映画コーナーは費用をかけた割に動員されておらず、次年度はやめた方がよいと考える。

○ 動 員 係

1. 車内ポスターの中吊について、最初5月22～23日に掲示する予定であったが、実際には5月19～20日となった。
2. 動員状況について目標10,000名に達せず今年は動員率が落ちた。来年は開催日のとり方、動員の方法等十分考えたい。

これに関連して、中山委員長より、「客の滞留時間は45～60分であり、満員という状況であったような感を受けた。各コマの説明なども十分で、内容としては充実したものと思う。」との見解であった。

○ 土 産 係

1. 動員数が予想を下回ったので、土産、袋が若干余り、日缶協・全缶協にそれぞれ保管してある。これを如何に処理するか。（全委員の承認を得て共同宣伝にて使用することに決定。）
2. アンケートは4,300枚回収したが、このうちから抽出し結果をまとめてみたい。（この集計に関して共同宣伝事務局に一任することになった。）

○ 即 売 係

1. 100円コーナーの特設は成功であった。
2. 各社の協力により、買物袋が多数集まり、また客もこの袋に興味を示し効果的であった。
3. 即売状況は各社によって差があるが、コマで即売品の試食を行なっているところは売行きが良かった。
4. 一部商品の販売問合せなどがあり、商品の選択、その他について十分ぎん味したい。

(第20回) 缶詰表示問題連絡協議会

6月29日、日缶協の当番により缶詰表示問題連絡協議会を開催し、①果実缶詰の一般表示基準について、②JAS規格の「標準」表示について、③廃缶処理対策について、④水銀問題など、当面する諸課題を協議した。なお協議内容の一部は東京10人会の会合において事務局報告を行なった。

缶 詰 共 同 宣 伝

〔 サンケイ缶詰料理教室 〕

6月料理教室日程

と き	と こ ろ	住 所
6月18日 (月) 13.00～15.00時	中央料理教室	米沢市中央1-1-27
6月19日 (火)	秋田県クッキングスクール	秋田市土崎港南 2-3-47
6月20日 (水)	弘前調理士学校	弘前市新寺町3-5
6月22日 (木)	佐藤家庭料理教室	青森市新町2-1-14
6月22日 (木)	寺尾小学校	横浜市鶴見区東寺尾 5-19-1

関 係 団 体 報 知

〔 役 員 変 更 〕

※ 日本缶詰輸出組合では本年度の通常総会並びに理事会において、理事長後藤達郎氏の任期満了に伴い、新理事長に三菱商事株式会社取締役二村謙三氏が選任され、6月1日付で就任した。

会 員 消 息

〔社名変更〕

※ 榑大彦商店（名古屋市市中村区花車町・取締役社長・野田公明氏）では、このほど諸般の情勢により社名を次の通り変更した。

新 社 名 大彦商事株式会社

〔本社移転〕

※ 榑石津屋（社長・和田円三氏）では、このほど新社屋が完成したので、下記に本社を移転した。

- 営業開始日 昭和48年6月25日
- 新社屋所在地 〒411 三島市梅名字国川51の6
- 電話番号 0559-77-3516（代表）

故 浅井二郎前会長四九日忌

北洋商事株式会社では、故浅井二郎前社長の四九日忌を6月28日（木）17.00～20.00時、千代田区丸の内のパレスホテル・ローズルームにおい

て執り行なった。この日、ご令息長男浅井孝氏、未亡人浅井マサさんをはじめ全国から業界トップ関係者約300名が出席、故人の遺徳を偲んだ。

この席上、榊サンヨー堂社長渡辺明、三和缶詰社長今野善之の両氏より誠実、根性、努力、実行について故人の人と成りが語られ、また人間愛にあふれる故人の思い出話などがあり、参加者一同に深い感銘を与えた。

